

創刊にあたって

東京都公文書館は、全国で「公文書館」を名乗った初のアーカイブズとして、昭和43年に開設されました。

以来、当館は、歴史資料として重要な公文書等の収集、保存及び公開・閲覧を行うとともに、都に関する修史事業を通じて、公文書等を都民共有の財産として広く利用していただく役割を担っております。

こうした事業を支えていく基盤として、当館では、公文書等の歴史的意義をはじめ、文書等の相互の関連、その作成の過程や内容についての調査・研究活動に取り組んでおります。

これらの成果については、企画展示や関連講座等を通じて生かされてきましたが、今回、この成果をより広く共有し活用していただくために、「東京都公文書館調査研究年報＜WEB版＞」を刊行することとなりました。

調査研究の成果や所蔵史料に更にアクセスしやすくなることで、利用者の利便性向上に寄与するとともに、より多くの都民の方々に公文書館への理解を深めていただく一助になることを期待しております。

昨年8月には、当館所蔵の「東京府・東京市行政文書」約33,807点が、東京の都市の形成過程や基本政策を知るうえで重要な基本資料として評価され、国の重要文化財に指定されました。

今後とも、これらの文化財を含む重要な公文書等を適切に保存していくとともに、歴史資料としてまた行政資料として広く利活用に供して、都政の検証と将来の都民への説明責任を果たしてまいります。

平成27年3月

東京都公文書館長